

2026年5月26日  
日本銀行大阪支店

## 記者会見冒頭説明要旨

今回、関西景気の総括判断を、「一部に弱めの動きがみられるものの、緩やかに回復している」として据え置きました。中東情勢を巡り不確実性が高い状況にありますが、現時点では引き続き、個人消費や設備投資など堅調な内需が関西経済全体の緩やかな回復を支えていると判断しています。以下、特徴的な動きについて説明します。

第一に、輸出・生産は、これまでのところ横ばい圏内で推移しています。中東情勢悪化に伴う国際商品輸送の混乱や原油価格の上昇などを背景に、一部の企業では、生産調整や迂回輸送といった対応がみられています。また、石油・石炭製品や化学製品などの価格を引き上げる動きにも広がりが見られます。今後の動向をいっそう丁寧に見ていく必要があると考えています。

第二に、個人消費は、緩やかに増加しています。国内の個人消費は、雇用・所得環境の改善が続くもとの、サービス消費が堅調に推移しているほか、富裕層による高額品の消費が増加するなど、総じてしっかりとしています。また、インバウンド需要は、引き続き高水準で推移しています。先行き、原油価格の上昇等の影響を注意深く点検していきたいと思えます。

第三に、雇用・所得環境は、緩やかに改善しています。今年の春季労使交渉は、たとえば連合大阪による5月中旬の集計結果をみると、しっかりとした内容となっています。こうした動きが実際の給与所得に反映されていくなかで消費活動が支えられていくことを期待しています。ただし、賃上げの程度には、企業によりばらつきがみられるため、今後も丁寧に確認していきたいと思えます。

先行きの関西経済の動向を点検していくにあたっては、今後の中東情勢の展開が関西経済に及ぼす影響などについて注意深くみていく必要があります。

以 上